



伊勢原市児童発達支援センター おおきな樹
伊勢原市伊勢原1丁目24番15号TEL 0463-79-5355



～BCP研修を通して考える「備える力」～

日頃より、当センターの取り組みにご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

先日11月28日、当事業所では職員研修として「BCP研修および訓練」を実施いたしました。

BCPとは「事業継続計画（Business Continuity Plan）」の略称で、感染症の流行や地震・風水害などの自然災害が発生した際にも、こどもたちの命と安全、そして支援を継続するために、あらかじめ定めておく行動計画のことです。近年、福祉事業所においてBCPの策定と運用は義務化されており、書類を整えるだけでなく「実際に動けるかどうか」が強く求められています。今回の研修では、感染症と自然災害の二つをテーマに、研修と訓練を合わせて約90分間行いました。

前半の研修では、感染症発生時の初動対応として、発熱児の発見から隔離、保護者への連絡、消毒までの流れを確認しました。また、職員や同居家族に発熱があった場合の出勤基準、人員が不足した際の縮小運営の考え方についても共有し、短いケース検討を通して「その時どう動くか」を具体的に考えました。

自然災害の研修では、地震発生時の身の安全確保、避難判断、避難ルート、点呼や持ち出し物の確認を行い、特に児童一人ひとりの特性に応じた配慮について重点的に確認しました。パニックになりやすい子、音に敏感な子、行動に時間がかかる子など、それぞれに有効な声掛けや職員間の役割分担を再確認しました。

後半は実際の訓練を行ないました。感染症対応では、活動中に発熱が確認されたという想定で、隔離誘導や連絡、消毒を実践しました。地震訓練では、揺れを想定した安全確保から避難、点呼、保護者への引き渡しまでを行ない、最後に振り返りの時間を設け、課題や改善点を全職員で共有しました。

折しも先日、青森県沖を震源とする地震が発生しました。大きな被害がなかったとはいえ、「いつ・どこで」起こるかわからないのが災害です。防災とは災害を完全に防ぐことなく、被害を最小限に抑える「減災」の視点がとても大切だと改めて感じています。

こどもたちの命を守るため、そして地域の一員として支援を止めないために、私たちはこれからも訓練と見直しを重ねてまいります。ご家庭や地域におかれましても、ぜひこの機会に「もしも」の時の行動や備えについて考えていただければ幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

1月の予定



- 5日（月）新年の集い
- 13日（火）避難訓練
- 13日（火）身体測定（にじぐみ）
- 14日（水）身体測定（ほしぐみ）
- 15日（木）身体測定（つきぐみ）
- 15日（木）お誕生会（にじぐみ）
- 30日（金）引き取り訓練 ※帰りバス送迎なし



1月のうた ♪こんこんくしゃん ♪おにのパンツ

お知らせ

冬休みは12月27日（土）～1月4日（日）です。年明けは1月5日（月）から開所します。

12月26日（金）は、園に置いてある衣服・オムツ・クレヨン・折り紙・自由画帳を持ち帰ります。持ち帰った衣服は、冬物への衣替えをお願いいたします。おりがみやクレヨンなどの教材等も、中身を確認していただき、必要な物は補充をしてください。

持ち帰った衣服、オムツ、クレヨン、折り紙、自由画帳は1月5日（月）にお持ちいただきますようお願いいたします。

親子レク・親子参観を終えて

にじぐみ

初めは緊張している表情の子どもたちでしたが、参観の【あぶくたった】では、みんなで取り組み楽しみました。親子レクでは、保護者の方が隣に座ると緊張の表情から一変して笑顔になる子どもたち。保護者の方と関わる子どもたちの姿を見ることもでき、楽しい保育参観・親子レクになりました。

ほしぐみ

参観では、お家の方に駆け寄りたい気持ちを抑えて、【朝のお集まり】や【おおきなかぶ】に取り組みました。親子レクでは、【おおかみさん】や【あそぎゅー】で触れ合い、笑顔いっぱい。最後は「ありがとう」の気持ちを込めてメダルを渡し、子どもたちの可愛い表情が見られました。

つきぐみ

今回親子レク、保育参観として【お集まり】を見て頂いたり、【製作】や【室内散歩】に参加して頂きました。これまでの夏祭りや運動会とまた違った形だったので子ども達も緊張した様子が見られましたが、保護者の方と一緒に楽しく製作をしたり、散歩が出来て素敵な笑顔が見られました。

内科・歯科検診の様子

桜台こどもクリニックの有賀先生、つじむら歯科の辻村先生にお越しいただき、今年度2回目の内科検診、歯科検診を行ないました。お医者さんの姿に緊張したり、「お願いします」と挨拶をしたりと、様々な子どもたちの様子が見られました。事前に『おいしゃさんごっこ』の課題を取り入れて、聴診器の玩具を使ったり、口を大きく開ける練習をしたことで、どんなことを行なうのか見通しが付き、緊張しながらも頑張っていた子どもたちでした。